

# What's up

コロナの影響で近況が変化している方もおられる中、過去にテメキュラを訪問された方々からメッセージを届けていただきました。

私が生徒6人を引率し、初めてテメキュラを訪問したのは、初任者として勤務していた母校中山中の2年目の1999年でした。山根浩校長先生に淀江町（当時）の淀江傘を購入していただき、生徒と一緒に傘踊りを練習し、市役所でホストファミリーや市長さんに披露しました。その時、大きな拍手と歓声をもらいとても嬉しかったです。その傘をホストファミリーにプレゼントし、とても喜んでくれました。4泊5日のホームステイはとても濃く、充実したものでした。ホストマザーのレイチェルと涙のお別れをしたことは今でも忘れることができません。また、一緒に行った6人の、日を重ねるに連れ、交流を深め生き生きとする姿を見て、本当のコミュニケーションとは何かを改めて考えさせられたのも、このテメキュラ研修でした。大切なのは、言葉が上手とかそういうことではなく、どれだけ相手に自分の気持ちを伝えたいか、また、どれだけ相手の気持ちをわかろうとしているか、なのだ。そして、もっとスムーズに意思の疎通を図るのに、うまく使えると嬉しいのが英語、なのだ。今は南部町立法勝寺中学校に勤務していますが、このとき学んだことが自分の今の英語指導の原点だと、思っています。

中山中の後、溝口中で8年間勤務し、その後名和中へ異動となり、再びテメキュラ研修の指導に関わって、とても嬉しかったです。そして、今、テメキュラとの交流を経験した人たちが青年団を立ち上げ、活動を続けていることを本当に嬉しく思います。テメキュラとの交流事業に関わるすべての人に感謝するとともに、末永く大山町とテメキュラとの交流が続くことを心から願っています。

**池信直佳先生**



**金田優香**

テメキュラ市へのホームステイには、母も兄も参加させていただいたため、とても身近に感じていました。当時は発音に自信がなく、あまり話せず後悔ばかりでした。しかし中学生で国際交流をできたことは、本当に貴重な経験だったと社会に出て強く感じ、感謝が絶えません。そんな経験は自分の自信に繋がり、今は子どもや仲間を巻き込んでスポーツや旅行など気になったことには挑戦し、充実した日々を過ごしています。私は進学を機に地元から離れていましたが、子どもにも国際交流を体験させたくて、小学校にあがる前に大山町に戻ってきました。中学生になったときには国際交流を心から楽しめるよう、今から青年部などを通して親子で関わっていきたくと思っています。



## 秋田知夏

学生時代に最も影響を受けた経験である、テメキュラへの訪問から14年が経ちました。あの頃の私は、ただアメリカのドラマやセレブが好きな学生で、英語も全然話せませんでした。「外国にただ興味がある」だけだった私の背中を押してくれたのは父の「広い世界を見てこい」という一言でした。

あの異文化交流をきっかけに、いい意味で自分の固定概念が崩れ、大学時代には交換留学で渡仏しました。卒業後、夢であったパリで服飾を学び、パリコレに関わる仕事をすることができました。現在はその経験を活かし、東京でフリーランスとして働いています。

中学生の時にあのような貴重な経験ができたことは、自分にとって財産です。国際交流会に参加できるとも嬉しく思いますし、後輩達にも私たちの見聞を通してより豊かな経験をしてもらえたら幸いです。

中学生の時にテメキュラを訪れてから早いもので約十年経ちました。「青年部会報」に掲載する文章を書いて欲しいというお話をいただき、正直なところ最初はお断りしようかと考えておりました。というのも、現在は実家の宿坊を継ぐため修行中ですが、新型コロナウイルスの影響でインバウンドのお客様と接する機会はほぼなく、大学生の頃からの趣味である海外旅行にも全く行けていない、そのような状況でテメキュラでの交流で得られた英語力がどのように私の人生に活かされているのか考えても何も思い当たる節がなかったからです。とはいえ、テメキュラでの経験が何も意味がないものだとは少しも思っておりません。大学生の頃は長期休暇を利用して国内外を旅し、大学卒業後もさまざまな体験を通じて多種多様な価値観に触れてきました。その中で私の根底にあり常に感じていたことは、どんな経験で得たことも思いがけないところ・自覚していないところで作用し合っており全て繋がっているということです。

また、私は大学では仏教学を専攻しておりました。大学四年間で学んだ仏教思想の中で特に印象に残っている言葉が「日々是好日」です。これは禅の言葉でさまざまな解釈ができるのですが、私は雨の日も晴れの日も風の日も雪の日も誰かにとっての幸せな日であるから自分の価値基準だけで一瞬一日の幸せを決めるべきではないというように解釈しています。人間の価値基準や考え方というものは、基本的にその人のそれまでの人生で得た物事に基づいて形成されるものだと私は考えています。そのため一つの問題に目を向ける時にも多角的視点で捉えるために自分の興味外の物事でも進んで学んでいく姿勢が大事だと思ったのですが、今思えばこれに気づけたのはテメキュラでの経験がきっかけになっています。多感な時期で学校に行くことの楽しさも見出せずただ一日が過ぎるだけだった中学時代に、テメキュラの学生との交換留学はあらゆるものに対してのカルチャーショックから始まり、一瞬一瞬が楽しかったことを今でも鮮明に覚えています。そして、そういった自分とは全く違う環境で生まれ育ち自分とは違った視点を持っている人達と交流していくことは自分の引き出しを増やす為、大変貴重な機会でした。

前述した通りコロナ禍の私の生活では英語を活かしたことというものは特にありませんが、自分でも気づかないところでテメキュラにて得た経験が確かに糧になっていると考えています。末筆ではございますが、当時貴重な経験をさせてくださった大山町や両親、金子さんや本多先生をはじめとした関係者の皆様、誠にありがとうございました。

## 清水九十九

皆様お忙しい中メッセージを書いて下さり、ありがとうございました。

コロナの影響で直接人と人が出会って交流することが難しいので、近年はギフト交換やビデオメッセージ等を通して交流を続けています。交流や活動のアイデアをお持ちの方、ぜひお知らせください！

